

奈良県スポーツイノベーション推進本部 第2回本部委員会 議事要旨

日 時：令和7年4月16日（水）10：00～11：00

会 場：奈良県コンベンションセンター

出席者数：13名

（1）開会行事

1) あいさつ

奈良県スポーツイノベーション推進本部本部長（奈良県知事） 山下 真

（2）第2回本部委員会（司会 山下本部長）

1) 第1号議案・・・資料 P2～6

◆事務局より、令和6年度事業について実施報告。

➤ 第1号議案について、承認された。

2) 第2号議案・・・資料 P7

◆事務局より、令和6年度事業決算について報告。

➤ 第2号議案について、承認された。

3) 第3号議案・・・資料8～13

◆事務局より、奈良県スポーツイノベーション推進計画案を説明。

(概要)

- ・令和13年度に奈良県で開催する第85回国民スポーツ大会を契機に持続性のある競技力の底上げを推進するため、その具体化に向けたロードマップとして策定。
- ・「体制強化」、「選手の発掘育成／指導体制の確立」、「環境整備」の3点の取組方針に基づき各種事業を展開。

➤ 第3号議案について、承認された。

(第3号議案の主な意見等)

- 国スポ大会後のレガシーのあり方を準備しておく必要がある。全ての競技団体の競技力を底上げすることは難しいが、先に向けたビジョンはあるか。（原田委員）
→ 国スポ大会終了後も視野に入れた取組を進めていきたいと考えており、本推進本部や競技団体の意見を集約しながら、適切に検討していきたい。（事務局）

- 指導者の確保・養成・資質向上の点で、日本スポーツ協会は資格の義務化の方向で動いている。奈良県としても指導者の確保や資質向上、特にハラスメント問題やコーチの賃上げなどを踏まえて、どう指導者を育成していくか、有資格者を何人増やすかなどの指標はあるか。（中谷委員）
 - 競技によっても異なるため、現時点では目標値は掲げていないが、パワハラ問題や指導方法の方向性も含めた指導者の確保について、奈良県スポーツ協会などと協力しながら検討を進めていきたい。（事務局）

- 若草国体からの指導者が60代を超える年代になっており、若手の指導者の育成が急務となっている。取組のうち、企業とアスリートのマッチングを計画されているが、是非とも奈良県への定着、継続的な指導者の養成に繋げていただきたい。（稲葉委員）

- アスリート県内定着事業に関して、求人登録企業が10社あるが、実績はどうか。指導者発掘はどのような手法で行っているのか。（山下本部長）
 - 相談案件はあるが、マッチング実績には至っていない。発掘手法については、県内の競技団体に照会し、その情報を集約するところからスタートした。今年度は、それに加えて、学校や学生の求職者を把握していきたい。（事務局）

- アスリートの情報は、国の競技団体の方が多く持っていると考えるので、そちらに働きかけることはできないか。（山下本部長）
 - ご指摘を踏まえ、県の競技団体等を通じながら相談していきたい。（事務局）

- 学生へのアプローチに関して現状の想定はどうか。（山下本部長）
 - 県内大学を中心として、天理大学等のご協力いただける大学から拡げていきたい。（事務局）

- 天理大学では、将来指導者を目指すOBやOGの情報をどれくらいお持ちか。（山下本部長）
 - 天理大学としてもスポーツをブランディングに繋げており、学生の将来のことを考えると、身近に戻ってくれる方がいい。
現状、アスリートの情報は各クラブが把握しているが、今から取り組むということであれば、大学にもクラブの担当者がいるため、呼びかけ等は可能。確実な職に繋がるように整備していただければ、大学をあげて取組に協力ができる。（中谷委員）

- 県内の競技団体やスポーツ協会で、呼び戻したいアスリートの情報等は持っているか。（山下本部長）
→ 競技団体とアスリートとの関係があるところもある。これから協力を深めていきたい。（池田副本部長）
- 昨年度は、色々と試行錯誤を行いながらアスリート情報を集約してきた。これからも情報発信も含めてご協力いただき、情報提供もいただきたい。（事務局）
- 企業に対して、アスリート雇用に関するプロモーションをすることも必要。本事業はこれまでにないよい視点であり、スポーツ全体の発展にもなる。
もう1点、インターナショナルなアスリートの育成は国の仕事なので、そこはうまく切り分けながら好循環の仕組を組み立てることが重要。（原田委員）
- 奈良県は、中学校で活躍した子どもが高校で他県に出て行く現状があるが、競技場所の確保や学業との両立がしやすい環境があると、県内に留まる子どもが増えると考えるが、そのような対策は考えているか。（加藤委員）
→ 高校段階で、アスリートが県外流出している現状は認識している。今後検討していきたい。（大石委員）

4) 第4号議案・・・資料P14～16

◆事務局より、令和7年度予算案、令和7年度事業計画案を説明。

(概要)

- ・令和7年度から新たに実施する事業を中心に事業計画と実施趣旨を説明。
➤ 第4号議案について、承認された。

(第4号議案の主な意見等)

- スポーツコミッションについて、佐賀県は国スポ大会前にスポーツコミッションを立ち上げ、国スポ大会終了後も競技施設を使った合宿誘致を行っている。アウトドアスポーツの振興などもスポーツコミッションの守備範囲になっていくため、奈良県も予算を配分して力をいれていただきたい。（原田委員）
→ 現在、南部東部振興課でアウトドアツーリズムの促進事業を行っているので、そちらとの連携も図ってほしい。（本部長）
- 子どもの頃のスポーツ体験がその後のスポーツ習慣の形成に役立つ。スポーツ庁でもマルチスポーツの考え方が推奨されているが、こどもスポーツフェスティバル

はマルチスポーツで実施する予定か。（中谷敏委員）

→ こどもスポーツフェスティバルは、マルチスポーツの考え方に則っている。
様々な競技を体験してもらい、間口を拓げていきたい。（事務局）

5) その他意見

- 先日、帝塚山学園で落雷事故があった。競技環境の整備は難しいところではあるが、安全な大会運営をしていくためには設備の充実は不可欠。全国大会につながる大会で、天候不良によって大会が打ち切りになり、臨時的な措置として予選の記録で全国大会出場者を決定したこともある。国スポ大会で会場になる施設もあると思うので、落雷予防の屋根の整備等の検討をいただけるとありがたい。（稲葉委員）

以 上